

新座市の観光と地域経済

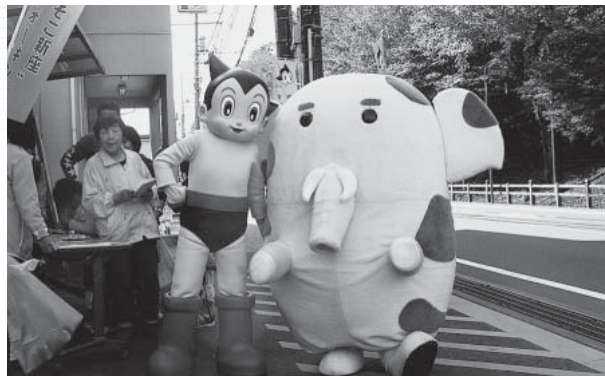
▼鉄腕アトムも住民登録

県南西部地域に位置する新座市は、市内に広大な寺社林を持つ平林寺や野火止用水が観光資源として有名だ。その新座の地名は、古代の758年（天平宝字2年）に関東平野の武蔵国に『新羅郡』が設置されたことに由来する。朝鮮半島の新羅国から、先進文化を持った多くの人々が移り住み、やがて『新羅郡』は『新座郡』に改められ、現在に至っている。また、市内に鉄腕アトムで知られる手塚プロダクションの新座スタジオがあることでも有名で、市ではアトムに『元気の出るまちづくり』を応援してもらおうと、特別住民票を交付したことで全国的に知名度がアップした。

市域の面積は22.80平方キロメートルで、人口は16万1,340人（2011年12月1日現在）。都心から20キロ圏内と近いこともあって、1970年代から急速に都市化が進み、首都圏の中堅都市に発展したが、どちらかと言うと東京のベッドタウンとしてのイメージが強い。市内中央部に武蔵野の面影を今でも残す緑の多い野火止台地、そのほぼ中央には臨濟宗の名刹『金鳳山平林禅寺』、通称平林寺があり、年間を通してグリーン・ツーリズムを楽しむ人たちが賑わう。



紅葉だけでなく、桜も美しい平林寺。
今年も開花が待ち遠しい



鉄腕アトムとツーショットに収まる「ゾウキリン」

そのため、新座市は首都東京近郊にありながら、多くの自然風景が楽しめる“田舎”を売り物に観光振興を図っており、コンセプトは“歩いて楽しんでもらう”というウォーキング・ツーリズムと、自然を身近に感じてもらうグリーン・ツーリズムに置いている。ウォーキング・ツーリズムの代表的な観光資源は平林寺だ。東京ドームが約9個も入る広さがあり、約43ヘクタールの境内林はクヌギやコナラなどの雑木林に包まれ、1968年（昭和43年）に国の天然記念物に指定された。もともとは南北朝時代の1375年（永和・天授元年）に、鎌倉建長寺の住持をしていた石室善玖禅師を開山として、現在のさいたま市岩槻区金重に建立された寺で、江戸時代になって川越藩主の松平伊豆守信綱が先祖の供養地として同地に移転を計画、その子の輝綱が信綱の死後になって移建している。

境内には総門や山門、仏殿、本堂のほか松平伊豆守信綱の墓などがあり、静寂に包まれた中で歩くと、身も心も清められそうだ。由緒ある総門は切妻造茅葺の四脚門で、江戸時代初期の1648年（正保5年）に、京都詩仙堂石川丈山（元三河武士で漢詩人）が揮毫した“金鳳山”の扁額が掛けられている。この総門をくぐると山門があり、こちらは入母屋造茅葺の楼門。左右に明治から昭和にかけて、民間主導の電力会社再編を主張し、日本の



観光コースの人気スポット「睡足軒」

“電力王”と称された松永安左エ門（耳庵）が寄進した金剛力士像が立っている。山門の左側には半僧坊と経蔵があり、さらに前方に進むと仏殿となる。

本堂は仏殿と中門の先で、1880年（明治13年）に仮本堂として再興され、堂内には松平信輝が寄進した釈迦如来坐像が安置されている。しかし、中門から本堂と、林泉境内は一般には開放されていない。お目当ての松平信綱の墓は、林泉境内の奥にあるが、こちらは散策コースの中にあるため見ることができる。毎日、午前9時から午後4時半（入場は4時まで）まで見学でき、拝観料は個人の場合大人500円、子どもは200円が必要。

年間約9万人が訪れる平林寺はまた境内林が有名で、30種類上の野鳥が生息するなど、武蔵野の面影を色濃く残している。特に紅葉が見もので、毎年秋が深まる頃には境内林が真っ赤に染まり、県内外から大勢の観光客で賑わう。また、毎年4月17日に行われる半僧坊大祭を楽しみにしている観光客も多い。この大祭では、半僧坊感應殿で大般若経六百巻の転読などが盛大に行われ、近隣法類（同宗で同派に属する親しい関係にある寺院と僧侶）のお練りや稚児行列も行われる。また、松平伊豆守信綱の伊豆殿行列や雅楽も行われ、門前では200軒余りの各種露店や植木市が立

ち並び、関東各地から訪れた観光客を迎えている。

境内には野火止用水が流れているが、この用水に沿って歩いてもらうのも、同市にとっては観光資源のもう一つの目玉。野火止用水は、1655年（承応4年）に松平信綱が家臣の安松金右衛門に命じて造らせたもので、玉川上水から取水して飲料水や生活用水として使われていた。近年になって、宅地化に伴って用水の汚染が進んだが、市民がこの貴重な文化財を残そうと立ちあがる。この活動を東京都と埼玉県が支援し、復元対策事業と清流対策事業が行われたことから用水の流れが復活。今では魚が生息するまでに生まれ変わり、市民の憩いの場ともなっている。

市内を流れる野火止用水の全長は隣接の志木市境から東京都清瀬市境までの約9.1キロメートルで、遊歩道が整備されている。季節にかかわらず、ウォーキングを楽しむ市民や観光客が中心だが、秋には平林寺の紅葉を目当てに訪れる人が多く、10月から12月の休日には、リュックサック姿のグループが途切れないほどだ。新座市では、こうしたウォーキング・ツーリズムのために、3つの観光コースを設定して誘致を進めている。紹介すると、道程約5キロメートルの“自然と歴史を巡るコース”では、JR 武蔵野線新座駅を発着地にして野火止公園や伊豆殿橋、平林寺総門、



武蔵野の面影を多く残す野火止用水と緑道



市民ボランティアも活躍するカブトムシのナイトツアー

睡足軒の森などを回る。平林寺の境内林を周遊するのがメインで、野鳥のさえずりと雑木林が織りなす四季折々の情景を楽しみながら、のんびりと自然散策や歴史を探访することができる。

新座駅をスタート地点にして、ゴール地点の西武池袋線清瀬駅まで歩く“野火止用水を巡るコース”は、約8キロメートルと少し長い。開削から350年以上も経た野火止用水に

沿って、整備された遊歩道を歩く行程で、武蔵野の風情が堪能できる。距離が少し長い分、総合体育館や本多緑道といったスポットに立ち寄り見所も多い。3つ目の“街なか散策コース”は、東武東上線志木駅を起点に野火止用水跡の遊歩道を南下し、平林寺境内を周遊して新座駅までの約8キロメートル。都市化が進む志木駅周辺から、住宅街の中にある遊歩道を進むと、目の前には武蔵野の風景が広がり、今昔のコントラストが楽しめる。コース内には歴史的な文化遺産もあり、新緑や紅葉の時期には気分爽快にハイキングが楽しめるという。

これらのコースの中で、近年注目を集めている総合運動公園内の「本多の森お花畑」は、観光資源に付加価値を持たせるために整備した。もともと総合運動公園内にあった更地の部分で、ゴミ置き場になっているのを市民が「お花畑にしたら」と提案。2006年度（平成18年度）の事業で植栽が行われ、2007年春に

新座市の主な観光資源

- **平林寺**…関東地方でも名高い古刹の一つ。寺の面積は広く、境内林だけでも約43ヘクタールもあり、アカマツ林やコナラ・クヌギ林が中心で国の天然記念物に指定されている。四季を通して観光客が訪れるが特に紅葉が有名で、毎年秋が深まる11月には境内林が真っ赤に染まり、各地から大勢の観光客で賑わう。散策路が整備され、貴重な植生や歴史建造物に接することができ、木漏れ日を浴びながら一周約2.5キロメートルを歩くと、およそ1時間の散歩が楽しめる（写真）。



- **野火止用水**…1655年（承応4年）に、川越藩主の松平伊豆守信綱が家臣の安松金右衛門に命じて造らせた飲料用水。玉川上水（東京都小平市）から分水した用水で、全長は約24キロメートル。このうち、新座市内には約9.1キロメートルが流れ、遊歩道が整備されている。自然が楽しめる貴重

な緑道として、ウォーキング・ツーリズムの名所として知られ、四季を問わず観光客が絶えない。新座市では、観光資源としての価値を一層高めようと、2011年11月に沿線自治体8市に呼びかけて「野火止用水サミット」を開催。今後、連携して様々な活用方法を検討していくことにしている（写真）。

は菜の花、夏にはヒマワリが咲いた。これを記念して春の開花時期に合わせて“春まつり”が開催されるようになり、毎年3月下旬から5月中旬まで各種のイベントが行われている。昨年は、東日本大震災の影響で一連のイベントが中止となったが、一昨年は期間中を通して約6万2,000人の観光客が訪れ、菜の花やご当地グルメ、ジャズライブなどを楽しんだ。

▼歴史・民俗観光資源も豊富

平林寺や野火止用水が観光資源として注目されがちだが、このほかにも市内には歴史・民俗文化財も散在している。例えば、ウォーキングコースに必ず含まれている『睡足軒の森』は、前述した日本の電力王と称され茶人でもある松永安左エ門（耳庵）の屋敷地だったもので、改修された施設では茶道や華道、俳句など日本文化が体験できる。また、歴史



新座の新しい食文に定着しつつある「にんじんうどん」

民俗資料館には先人達が残した貴重な民俗資料や、市内約100か所の遺跡から出土した土器などを展示している。他にも歴史の重みを感じさせる寺社や仏閣も多く、平安時代の創建と伝わる普光明寺や氷川神社をはじめ、鎌倉時代に時宗の拠点だった法台寺、野寺の鐘で有名な満行寺など中世に創建された古社寺がある。中でも、普光明寺の山門は市の指定建造物で、棟門と高麗門を合わせた姿が珍しい。



- “すぐそ新座” 春まつり…総合運動公園内の約3,000平方メートルの菜の花畑は、毎年3月下旬から4月上旬にかけて見頃となる。春まつりは、その開花に合わせてシティウォーキングやうどんまつり、ジャズライブなど多彩なイベントが繰り広げられる。昨年は、東日本大震災の影響で中止となったが、今年は予定通り開催準備を進めている（写真）。

- 平林寺半増坊大祭…毎年4月17日に行われる行事の一つで、稚児行列や近隣法類によるお練りの後、平林寺境内にある半僧坊感応殿では、大般若経六百巻の転読などが行われる。平林寺大門通りでは、松平伊豆守信綱を称えた伊豆殿行列や雅楽もあり、門前には200軒余りの各種露店や植木市が立ち並び、関東各地から訪れた観光客を迎える（写真）。



民俗文化財としては、古くから新座の自然の中で脈々と受け継がれてきた素朴な伝統芸能を見ることができる。市内中野に伝わる獅子舞は市の指定芸能で、毎年8月の下旬の土・日曜には、獅子頭をかぶり腹に太鼓を付けた男獅子や中獅子、女獅子が一組になって五穀豊穡や災厄除けなどを祈願する。市指定彫刻の『本殿透彫胴羽目彫刻』がある大和田の『氷川神社はだか神輿』も、市の指定無形民俗文化財。白禪しろふんどしと白足袋姿の若衆たちが境内から神輿を担ぎ出し、川越街道を練り歩く。御輿を高く持ち上げたり、地面すれすれに落としたりする勇壮な担ぎ方から、別名荒神輿と呼ばれている。

グリーン・ツーリズムでは、市内にある雑木林が目玉となることから、観光客にもっとアピールするために、“ゾウキリン”をイメージキャラクターにした。2010年に市制施行40周年を記念して、観光都市にいざづくりのスローガンである『雑木林とせせらぎのある

新座』をテーマに全国から募集して決まったもので、雑木林の読み方を読み違えたネーミングだ。現在、ゆるキャラとして観光イベントなどに一役買っているが、観光協会と連携してグッズを製作・販売しているほか、市内の民間企業も“ゾウキリン”をモチーフにした商品を開発するなど全市的なPRに取り組んでいる。

新座市はまた、東京近郊に位置しているにもかかわらず農業が盛んで、庭先に直売所を設けて収穫した農産物を販売している農家が多い。ウオーキングで訪れた観光客が、直売所に立ち寄って買い求める姿が目立つことから、市では『いざ農産物直売所発見マップ』を作成。街歩きをPRするツールとして配布している。マップには野菜や果物、花卉、鶏卵などの直売農家70か所の場所と、各農家の販売品目を一覧にして掲載。その掲載直売所には、観光客が遠くからでも分かるように、のぼり旗が立てられている。さらに、



- **睡足軒の森**…平林寺総門の道路を挟んで反対側にあるのが睡足軒。日本の電力王と呼ばれ、茶人でもあった松永安左エ門（耳庵）が当地を購入し屋敷地とし、飛騨高山の田舎屋を移築して親しい友人を招いては田舎屋の茶を楽しんだ。その後、平林寺に寄贈され、寮舎として利用されていたが、2002年（平成14年）に新座市に無償貸与された。現在では、伝統文化を学ぶ場所として整備され茶道や華道、俳句などのイベントが開かれ、年間を通して多くの人を訪れている（写真）。

敷地とし、飛騨高山の田舎屋を移築して親しい友人を招いては田舎屋の茶を楽しんだ。その後、平林寺に寄贈され、寮舎として利用されていたが、2002年（平成14年）に新座市に無償貸与された。現在では、伝統文化を学ぶ場所として整備され茶道や華道、俳句などのイベントが開かれ、年間を通して多くの人を訪れている（写真）。

- **歴史民俗資料館**…先人たちが残した貴重な民俗資料や、市内約100か所の遺跡から出土した土器などを展示。入館料は無料で、月曜日を除く午前9時から午後5時まで見学できる。

- **普光明寺山門**…棟門と高麗門の形式を取り入れつつ、全体として薬医門とする設計意図がうかがえる山門。正面欄間の透き彫り、冠木形両端上部の彫り物、唐破風の兔毛通しなどの彫刻は、その時代的特徴と技術の高さを示している。市指定建造物。

- **大和田氷川神社はだか神輿**…毎年7月の第4金・土日の夜に行われる市指定無形民俗文化財で、白禪と白足袋姿の若衆たちが威勢よく神輿を担ぎあげ、川越街道を練り歩く。途中、神輿を高く上げたり、地面すれすれまで落としたりすることから、別名荒神輿と呼ばれている（写真）。



農産物の中でもニンジンの産地として県内では知られていることから、うどんの文化とコラボレーションさせた“にんじんうどん”を開発。郷土料理としてB級グルメ大会に出品するなど、名物食として全国に売り込み中だ。市内の飲食店で食べられるほか、製麺所でも販売しているが、新座名物食品の開発には市民と連携して開発を進めている。

こうした市民連携は観光振興にとっては重要なことで、官民が一体となって取り組むことで実を結ぶ。その意味では、市民の観光に対する意識は高く、市民ボランティアが大勢いることが強みだ。市では、立教大学と跡見学園女子大学、十文字学園女子大学の市内3大学と連携して市民総合大学を開設。約半年間の講座を修了した市民にはサポーターになってもらい、各種ボランティア活動をお願いしている。現在、観光都市づくり学科(立教)と緑のまちづくり学科(跡見)、子どもの読書応援学科(十文字)の3学科があり、観光

都市づくりサポーターとして活動しているのは120人ほど。サポーターとなった市民ボランティアは、それぞれの分野で活躍しているが、例えば『美化・ピカ隊』には40人が所属、野火止用水を中心に市内の美化活動に専念している。

昨年の夏に行われた『カブトムシの里親フェア』でも、この市民ボランティアが活躍した。平林寺をはじめとする市内の雑木林にはカブトムシが生息していることから、子どもたちに自然を大切にする心を育んでもらおうとカブトムシを配布。市内雑木林を会場にしたナイトツアーも実施して、カブトムシの生態を勉強するなど、市民ボランティアが中心となってカブトムシの里づくりを進めている。もう一つ、野火止用水や平林寺などを案内する観光ボランティアガイド協会には40人が所属している。こちらは市民総合大学を卒業後に、さらに専門分野の観光ボランティアガイドの養成講座を受講した人たち。観光客から

●**大和田囃子**…氷川神社には、江戸時代後期から祭礼の時に奉納される祭り囃子があり、川越街道名物のはだか神輿と一緒に人々に披露されてきた。囃子の曲目には屋台、昇殿、神田丸、鎌倉、四丁目、にんばなどがあり、おかめやひょっとこ、狐、獅子、下道などのお面を付けた踊りがつく。

●**中野の獅子舞**…市内中野の集落に古くから伝わる市指定芸能。獅子舞は、獅子頭をかぶり、腹に太鼓を付けた男獅子、中獅子、女獅子が一組となって舞い踊り、五穀豊穡と災厄除けなどを獅子に託して祈願する。毎年、8月下旬の土・日曜日に行われる。

●**新座阿波踊り大会**…毎年7月下旬に、東武東上線志木駅南口新座中央通りを会場にして行われている。



新座市内外からの地元出演各連を対象にした阿波踊りコンテストや、県内、都内からの友情出演の各連による踊りが披露される夏の風物詩(写真)。

●**市内各所の花めぐり**…市内には雑木林だけでなく、季節に応じた花のスポットも多くある。総合運動公園本多の森お花畑は春に菜の花、夏にはヒマワリが咲き乱れ、“すぐそこ新座”春まつりの会場として有名。市内北部に流れる柳瀬川沿いでは、春に100本以上のソメイヨシノが咲き、秋晴れの柳瀬川土手には彼岸花が満開となる。桜は市内新塚の栄緑道や市場板橋、黒目川沿い(写真)の堤などでも満開となり、新座の春の風物詩。市営墓園の北側斜面に群生するキツネノカミソリは、8月初旬から中旬にかけて真夏の太陽の下でオレンジ色の花が咲き誇る。野寺三丁目の保全緑地の斜面には、カタクリの花が群生し、3月下旬から4月上旬までが見ごろ。



の要請に応じて無料で市内各所を案内しているが、2011年4月から今年1月までの期間で、91組約2,000人の観光客をガイドした。この他にも花や環境保全など各分野にボランティアが所属していることで、観光都市づくりサポーター制度は大きな成果を上げている。

▼誘致目標の設定が課題に

こうした市民との協働による観光振興を基本に、市では市内を3つのゾーンに分けて点在する観光資源を結びつけるアクションプランを策定。観光スポットの点と点を結び、より効率的にしかも魅力ある観光ルートを提案していく計画だ。短期的な取り組みとしては、2012年度から統一した観光案内看板の設置を予定している。これまで市内の観光案内看板は不統一で分かりづらく、観光客からはあまり評判が良くなかった。そこで、昨年度から捨て看板で試行したところ、好評だったことから新年度予算に経費を計上。可決されれば、野火止用水沿線を中心に統一観光案内看板を設置していくことにしている。また、野火止6丁目に建設している『ふるさと新座館』（仮称）が今年11月には完成しオープンする予定で、市役所に隣接している現在の『観光プラザ』とともに、観光振興の中核的拠点として活用していく。

中・長期的には野火止用水という貴重な観光資源を高めるために、全長約24キロメートルの沿線自治体と連携して、その方策を検討していくことにしている。昨年11月には新座市の音頭で、立川・東大和・小平・東村山・清瀬・東久留米・朝霞・志木の8市と『野火止用水サミット』が開かれ、『流域自治体、市民相互の連携を深め、野火止用水と周辺自然环境等をいかしたまちづくりを進める』などとした共同宣言を採択。今後も継続して

話し合いを重ねながら、ウォーキングイベントなどの観光振興を含めた諸施策を取りまとめ、その実現に努力していくという。

新座市は、典型的な日帰り型の観光都市で、観光客は関東一円から訪れる。中でもJR新座駅を利用した武蔵野線沿線の千葉県や東京都内からの入込が中心だが、東武東上線や西武池袋線の駅からも近いことで交通の利便性は高い。市観光推進課では、「これといってエリアを絞った観光客誘致は考えていない」と話す。JRや私鉄各社とタイアップした“駅からハイキング”を実施していることで、観光企画の立案に際してはターゲットを絞る必要が出てくるだろう。同時に最近、アジアからの外国人観光客が大勢来日していることで、埼玉県はいかにして東京に来た外国人観光客を県内に引きこむかを課題に挙げている。新座市も東京に近いことで、外国人観光客が訪れる機会はあるが、「誘致には力を入れていない」（観光推進課）というのが実態で消極的だ。外国語が話せるガイドなど、受け入れ態勢の整っていないことが積極的になれない要因だが、国際化が進む中でいつまでも態勢整備を先延ばしするわけにはいかない。

他方、明確な入込観光客数の目標がないことも観光振興には妨げとなり、「目標とする数値を設定していないことが課題」（同）と言うように、早急に目標値を策定する必要があるだろう。市では県に対して、2010年度には約47万1,000人の入込観光客があったと報告しているが、この数値をベースにした目標設定は可能であり、数値を定めることによって地元経済活性化への寄与度も推し量ることができる。観光地としてはそれほどメジャーな市ではないことが影響しているのかもしれないが、『観光都市にいざづくり』のためには、誘致客数だけでなく各種の目標設定は励みになるはずだ。（写真提供・新座市観光推進課）